

千葉市次世代育成支援行動計画(後期計画) 夢はぐくむちばこどもプラン

Attention!!



前期表紙

この表紙をご存じでしょうか？
これに丸5年付き合ってきた、このなかに盛り込まれた事業にも、けっこうな件数かかわってきて、どうも合点のいかぬことがある。はたして誰のための「子育て支援」なのか？
子の育ちへの不安の声をあちこちで耳にする。虐待のニュースが不安を増長させる。
ワーク・ライフ・バランスはかけ声ばかり。「待機児童ゼロ作戦」は、保育の質の向上とどう整合性を保つというのだろうか。
そんな子育て環境の向上という言葉が妙に白つ茶けて感じられる閉塞感のなか、ひとすじの光を見たような気がしたのは、ご紹介した表紙の『夢はぐくむちばこどもプラン』の前期計画、その「実績と反省を踏まえ、子育て支援の更なる充実や子どもへの取り組みの強化とともに、妊娠前から子どもが自立するまでの期間を一貫して総合的に取り組むこと(本文抜粋)」を旨として策定された後期計画の総論に謳われた「次世代育成支援行動計画は、本市の次世代を担う子どもたちを幸せにするための計画です」という言葉だ。
現在の子育ての状況を憂い、公的な立場から「みらい」の可能性を紡ぎだそうとする策定者の思いが伝わってくる。この確固たる思いさえあれば、各事業の進行に伴いアクションの有用性は自ずと見えてくるだろう。今後5年間の事業展開におおいに期待したい。
さてもう一つの楽しみはこの後期計画を飾る顔Ⅱ表紙である。4月にはお目見えするはずの後期計画、さてどんな表情をみせてくれるのであろう。

「ママのためのニコニコフレイルーム～ママが本音で話せる場～」

ママニコッのご案内

「ママニコッ」には、ママがニコニコしていると、子どももニコニコしてくるよ！という思いが込められています。

「子どものために」「家族のために」と、どこか自分に無理していませんか？「ママニコッ」は、家族の元気の源＝お母さんがニコニコでいられるための場でありたいと、週1回、市民ネットワークみどりのお部屋で開催しています。主に0～6歳の、人間としての基礎が育つ大切な時期の子どもたちと、そのママが遊びにこられて、ママたちそれぞれの悩みや、アイデアの共有、保健師として子育て相談を数多く行い、さまざま

なケースに対応してきた経験者による、我が子との関係のアドバイス、育児環境の相談など、みんなが本音を出せる場になっています。(もちろん、口外しないお約束)。今、人気なのはパステル画。子どもの独創的な表現力には毎回驚いてしまいます。皆さんもぜひ遊びにきてください。そして本音で語り合い、共有しましょう。新しい育児スタイルが見えてくるかもしれませんよ♪

ともりん

- 対象・・・0歳～未就学児のお子さんとそのお母さん
- 開催日・・・第1・3火曜日(A.M.10時～12時)
第2・4木曜日(P.M.2時～4時)
- 申込先・・・293-8011(市民ネットワークみどり)
- 開催場所・・・市民ネットワークみどり
- その他・・・お子さまのおやつ・飲み物は各自お持ちください

今年のムクドリ対策は？

緑区内で夜間にムクドリの集団が確認される場所：鎌取駅・土気駅周辺



ムクドリはなぜ街路樹に集まるのか？

ムクドリは、もともと郊外の竹やぶや雑木林をねぐらにしましたが、人間による開発などによってすみかを追い払われてきました。ムクドリの天敵のいない街は、安心して過ごせる場所になっています。また、南方に起源を持つムクドリは、暖かい環境を好むので、気温が高く、明るい街は、ムクドリのねぐらに最適です。さらに、ムクドリはケヤキなどの細い枝がたくさんある落葉樹を好みます。

昨年の鎌取駅周辺の対策と状況

市による、6月と8月の「追い出し作戦」で、ディストレスコール(ムクドリの「助けて!」という悲鳴音をスピーカーで流す)などが行われました。しかし、周辺の送電線や住宅地に一時避難しただけで、8月は作戦終了後の翌日には、戻ってきました。

今年の対策(土木事務所に伺う)

- ① 2月8日～3月5日に区役所周辺のケヤキの剪定
- ② ディストレスコール等の「追い出し作戦」を2～3回予定
- ③ フンなどの清掃(随時)

私たちにできること 一緒に考えてください

ムクドリは空を飛んで移動します。追い出すことは、各地の対応の結果を見ると難しいと思います。では、どうしたらいいか。

ムクドリも私たち人間と同じ生き物です。人間の文明の発展と共に生態系が壊れてきたと思います。私たち人間が気持ちよく生きるためにも、ムクドリの問題をどうしたらいいか、皆さんも考えてみてください。

しむら

みんなでごみを減らしましょう 目標1/3減!

ごみは減った?

10月から、ごみ収集の回数が減りました。千葉市の家庭ごみはどのくらい減ったのでしょうか? **グラフ①**

確実に前年より減っていて、千葉市でごみ削減に向けて収集日を減らした成果が出ていると思います。私たち千葉市民の意識も少しずつ変わってきているのではないのでしょうか。しかしながら、まだ3分の1削減まではいかないので、もっと意識を高めて古紙と可燃ごみを減らしていく工夫が必要だと思います。

2月に開催した「生ごみ処理機の勉強会」で、千葉市の生ごみ事情を教えてくださいました。

グラフ②
紙類よりは、生ごみの占める割合が多いので、これを減らせば驚くほど全体量が減るということがわかります。

千葉市では、生ごみ減量機器を購入・配置する場合、購入費用の一部が補助されるので、

2月ごみ量前年比



グラフ①

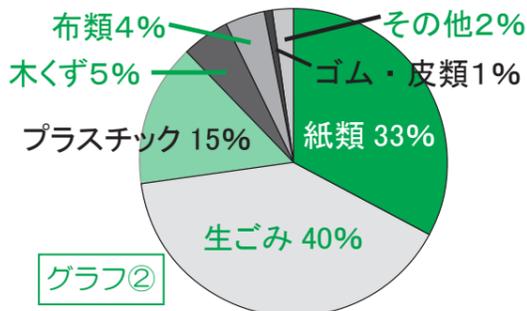
利用してみたいかでしょうか。(問い合わせ先:ごみ減量推進課 043-245-5067)

処理したものは、庭に埋めて植物の肥料にしたり、近所の畑をやっている人にもらっていただくほか、おゆみ野の森にある堆肥場(*)に持っていき、入れさせてもらうなどの方法もあります。(※ルールがありますので詳しく知りたい方はみどりネットまでお電話ください。)

また、廃止を予定している小学校にある生ごみ処理機を、地域で申し出て利用することもできるのではないかと思います。

一人一人が自分に合った方法を見つけて、ごみを減らす心がけをしていきたいものです。私たちの子どもや孫の代に、より良い環境を残せるように…。 つくつくエコ隊 O&T

家庭系可燃ごみの種類別割合



グラフ②

老人福祉バスで千葉を楽しもう!

着実に高齢化社会が進行している千葉市がこんな気の利いたサービスをしているなんて知らない人が案外多いんです。私はおゆみ野公民館で二十数名の老いらくのメンバーたちと講師をお招きしながら、おゆみ野史から房総史まで、郷土史の勉強をしています。耳からの知識だけではなく、目で見て鼻で郷土の歴史の匂いをかぐバスツアーを年数回企画して楽しんでいます。

千葉市の老人福祉バスを利用して、高速料金や駐車料金を負担する以外は無料!!

85歳の長老を筆頭に足の弱りかけた面々には大好評で観光バスでは出来ないサービスを手作りで演出しています。今年にはシニア倶楽部をつくって、地域に埋没しているシニアの輪を広げていこうと町内会で熱っぽく語りかけているところで

すが、敬老会にもなかなか腰を上げない面々にも「バスで菜の花を見、黒潮の匂いをかいで長生きしようよ」と声かけすれば効果適面と思っています。

実は、このバス事業も昨年の千葉市の事務事業仕分けで狙上にあがり、私も5名の外部仕分け人に、利用者の立場から活用の実態とメリットを訴えてきましたが、中止という結果になりその時はガックリでした。

ところが新年度の超厳しい予算の中で、熊谷市長のご理解で22年度は継続という事になりました。皆さんぜひ有効に利用しましょう! 来年度の継続に向けて

林敬三



老人福祉バス申込み: 緑保健福祉センター 043-292-8142

いざ出発!